

れき ぶん

# となん歴史民だより vol.53

Morioka tonan history and folklore museum

平成 29 年 12 月 22 日 発行

発行 盛岡市都南歴史民俗資料館 盛岡市湯沢 1-1-38 Tel/Fax 019-638-7228



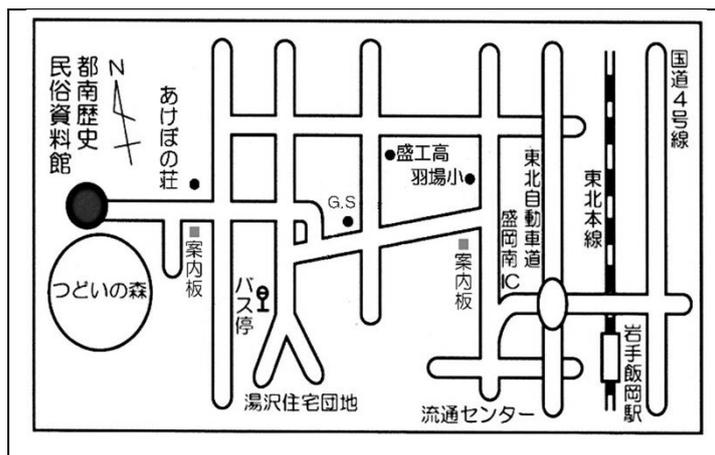
企画展「山のチカラ 大萱生鉱山」

## 是非ご来館ください。お待ちしております。

### — もくじ —

- 秋の事業報告
- 企画展「山のチカラ大萱生鉱山」終了報告
- 次回企画展のご案内
- 資料は語る(53)
- 盛岡市所在  
指定・登録文化財紹介(53)
- となんの昔ばなし(53)

### MAP☆ACCESS



### ○利用案内

#### 開館時間

午前 9 時から  
午後 4 時まで

#### 入館料

無 料

#### 休館日

月曜日

(休日に当たるときは、  
直近の平日)、年末年始

# 秋の事業報告

## ①都南歴史民俗資料館移動資料展

今年も、当館の所蔵資料を移動して展示する「都南歴史民俗資料館移動資料展」を10月28日(土)～10月29日(日)、11月3日(金・祝)～11月5日(日)の期間、都南公民館を会場に開催いたしました。今回は、炭焼きの道具や山仕事の装いなど「山」に関わる資料を展示しました。また、市内大ヶ生高江柄集落で製作されていた竹細工についてもパネルで紹介し、多くの方から関心が寄せられました。

本展の関連事業として、山仕事のときに脛を保護するために身につけるハバキの製作体験を実施しました。ハバキ製作にあたっては、市内湯沢在住の小笠原氏に製作方法を指導いただいたほか、材料であるスゲの採取にも同行させていただきました。当日は、募集定員5名と見学者のほか、当館が事務局を務める「となん・かけはしの会」会員も補助として参加しました。俵編み機を使用したハバキ製作に始めは慣れなかった参加者も、徐々にコツを掴み全員がハバキを完成させることができました。今回の体験で製作したハバキは、当時製作していた方や身につけて山仕事へ行ったという経験のある方が都南地域でも少なくなっています。今後も、当館では資料の収集だけではなく、ハバキのように今では製作されなくなったものについても聞き取りや記録をしていきたいと思っております。



スゲを材料としてハバキを製作する様子



完成したハバキを脛に巻く参加者

## ②史跡・文化財巡り

当館が事務局を務める「となん・かけはしの会」が例年実施している史跡・文化財巡りが11月15日に実施され、今年度は九戸城跡と二戸市立二戸歴史民俗資料館を見学しました。現在も史跡周辺の整備と発掘調査が行われている九戸城跡では、現地のボランティアスタッフの皆



九戸城跡についての解説を聞く参加者

様に案内いただきながら散策しました。二戸歴史民俗資料館においても、展示資料について詳しい解説をいただき参加者からは興味深い資料が多かったとの感想が多く寄せられました。

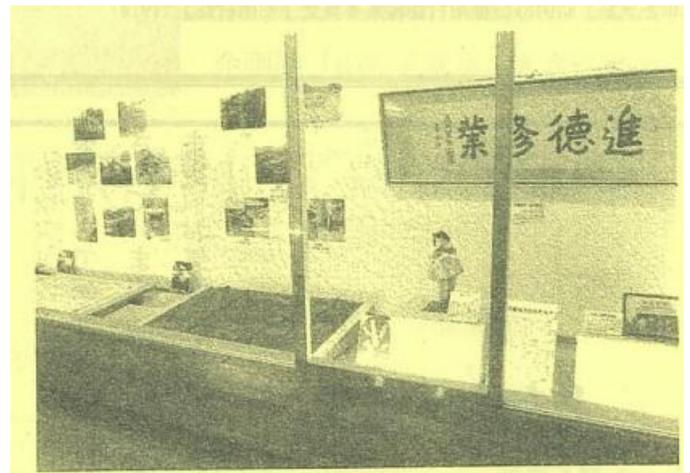
「となん・かけはしの会」では、常時会員を募集しております。お気軽に当館までお問い合わせください。

### ③大ヶ生金山の里を巡る歴史探訪バスツアー

平成 29 年 11 月 19 日(日)、当館で開催中の企画展「山のチカラ 大萱生鉱山」とタイアップし、市農政課による「大ヶ生金山の里を巡るバスツアー」が実施されました。当日は当館学芸調査員が製錬所跡を、中虫壁静夫氏が萬寿坑を案内し、地域おこし協力隊として市内大ヶ生で活動する池内絵美氏が参加者をもてなしました。当日は、約 50 名が参加し大萱生鉱山の関連遺構のほか瀧源寺などを見学しました。盛岡市に居住していても、普段なかなか大ヶ生を訪れる機会がないという方も多いようです。大ヶ生には、大萱生鉱山のほかにも大ヶ生の歴史を伝える資料や史跡が残されています。ぜひ、大ヶ生に足を運んでみてください。

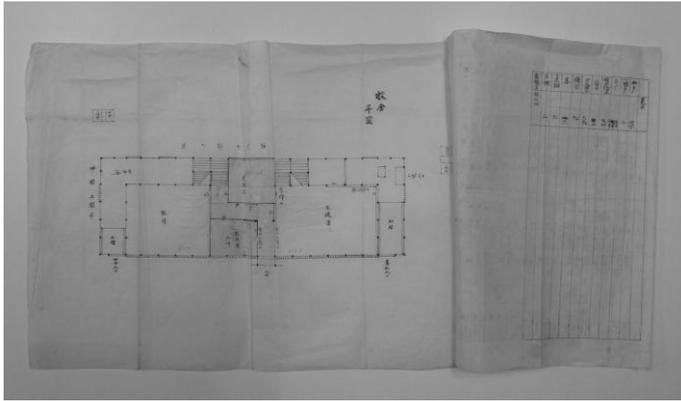
## 企画展「山のチカラ 大萱生鉱山」終了報告

当館では、平成 29 年 10 月 21 日(土)から 12 月 17 日(日)まで企画展「山のチカラ 大萱生鉱山」を開催いたしました。本展では、当館が保管する大萱生鉱山資料のなかから、大正～昭和 10 年代における住友経営期の資料を中心に展示しました。鉱山事務所や製錬所など当時の大萱生鉱山に関する図面や写真から、最盛期の鉱山の概要について紹介しました。来館者の鉱山への関心は高く、今後も大ヶ生の皆様の協力を得ながら情報を発信していきたいと考えています。



## 次回企画展のご案内

市民参加展「第 8 回旧暦ひなまつり展」平成 30 年 3 月 17 日(土)～4 月 22 日(日)



【見前学校築造契約書】

資料は、明治 32(1899)年の見前尋常小学校(現見前小学校)の新校舎建設に関する契約書です。契約書には、建設に使用する用材の一覧表と絵図面が添付されており、絵図面には教員室や教場のほか裁縫室が記されています。また、校舎には男女で別々の入口が設けられていたことがわかります。新校舎の建設費用には、同校の学資金と見前村内から集められた寄付金が充てられました。

同校の尋常科に高等科が併置されたことにより、見前尋常高等小学校と改称しています。

参考文献：見前小学校創立 100 周年記念事業協賛会『見前小学校 100 周年記念誌』(1973)、都南村誌編集委員会『都南村誌』(1974)

国登録民俗文化財



岩手県公会堂 1 棟

当時皇太子だった昭和天皇の御成婚記念事業の一環として建設が計画され、昭和 2(1927)年に完成しました。設計は東京都の日比谷公会堂などを手がけた佐藤功一によるもので、地上 2 階、地下 1 階、塔屋部分の外観様式は新古典主義で、外壁にはテラコッタ(装飾陶板)が施されています。昭和 3(1928)、陸軍大演習の際には、大本営御統監室として貴賓室が、御座所として隣の和室控室が使用されました。

参考文献：盛岡市教育委員会『もりおかの文化財』(2008)、渡辺敏男『盛岡市文化財シリーズ第四十二集 盛岡の洋風建築』(2014)

『三竹の権現さん』

となんの昔ばなし五十三

むかし、下飯岡の内村というところに竹藪があり、その竹藪が三つの森になっていました。そこにあった一軒の農家では、屋敷内に石の権現さまを祀っていました。代々農業を営んでいたその家は、周辺の人々から「権現ど」と呼ばれていました。しかし、その家の主人に道楽に興じるものがいて、ついには田畑も手放して破産し、主人は夜逃げをしてしまいました。

ところが、残された石の権現さまが夜な夜な泣いているのを知った集落の人々は、その権現さまを哀れんで社を造って祀り三竹神社と名付けたそうです。

出典：『となんの民話』(都南歴史民俗資料館、一九八八)

※こちらで紹介している民話は、冊子「となんの民話」に収録されています。市内の図書館のほか、当館でも貸出をしております。お気軽にお問い合わせください。



都南村歴史民俗資料館